

当論文内に掲載されているすべての文章の無断転載、転用を禁止します。

第6 教程（総合的分野に関する心理カウンセリング）

飯島 崇

心理学概要

現代心理学に最大の業績を残したフロイトとユングはいったい何を残したのか。

フロイトの最大の業績である「無意識の発見」から生まれた「無意識の概念」は、種々の心的現象や精神病理の原因、精神発達の仮定、夢の無意識的な意味などを全て性的欲動であるリビドーの充足と抑圧で説明する汎性欲説的な精神分析に結びつけていた。

一方、ユングは、夢や幻想に浮かび上がってくるイメージを性的欲動の充足や不足と結びつける解釈を否定し、それらのイメージの中に自己実現的な創造性や神秘的な物語を介在した可能性を見出そうとした。

更に、ユングは人間の精神世界の深奥に広がる無意識の領域は、個人レベルの幼児期の外傷的記憶といった矮小な領域に閉じたものではなく、人類全般に共通するような広大無辺な“集合無意識（普遍的無意識）”へと開かれていると考えた。

この「無意識の概念」に対する2人の違いは言葉は同じであっても、意味する内容は全く違っており、フロイトが発見（解き明かした）した「心の構造モデル」は深層心理を説明する上で最も重要であり、「人間というものは、自分で思っているほどには自分を支配していない。実はエスの中から沸き上がる無意識の力に駆り立てられて動いているのだ」といった考えや「人間の心は、動物のように、ただその瞬間を生きるものではない。生まれたときからの記憶を積み重ねながら、その上に現在の自分を営む歴史的な存在である。……つまり、人は歴史を持つ。その歴史的な記憶こそが、人を熱愛させたり、動かしたりするものだ。」という考えは感銘を受けます。

ただ、フロイトのリビドー概念には私自身疑問を抱くものであり、夢分析における性的なイメージを文句通りに受け取り定義したことには、なぜ、これ程までに偏った概念を持つようになったのか、それは、フロイトのユダヤ人としての生い立ち、又はフロイト自身の性的コンプレックスから来るものなのか疑問と興味を持つものであります。

この夢分析ではユングの夢分析を心理的シンボルとして解釈しようとした点に共感が持てます。

また、ユングについては、対面式臨床など共感出来る概念が多くあり、ユングの考えの基本として「相手を重視し、理解する為は何をすべきか」を常に考えていたからこそ行なった臨床方法ではないでしょうか。

心理学や精神医学の世界では、フロイトは古典に属する理論で、もはや現代では通用しないという見解もありますが、フロイト理論は人間存在の本質を鋭く捉えており、そのフロイト思想は時代を超えた普遍性を有しているのではないのでしょうか。

無意識を発見したフロイトとその無意識には人類全般に共通する集合無意識（普遍的無意識）とその基本的心象である元型が存在すると言う仮説を着想したユング。

また、コンプレックスを発見したフロイトとその存在を明らかにしたユング、この2人が残した業績、フロイトの精神分析、ユングの分析心理学は心理学の基礎的概念として学ぶべき事であり、2人が出会った事には神秘性を感じます。